# 第5章:どう設置するか(施工)

# 5.1 施工時における留意点

水田魚道の施工時においては、営農の障害とならないことや、魚がしっかりと遡上できるように現地で工夫を行い、適切な設置を行います。

#### 【波付き丸型の水田魚道の設置事例】

(愛媛県西予市の事例 (中国四国農政局土地改良技術事務所設置))

## 設置前

留意点:田んぼに入水すると田面が若干下がるため、想定水田面より 5cm ほど低い位置に魚道のみ口を設置するとよい。



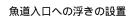
## 設置

留意点: 呑み口部からの漏水に注意する。 畔土に水を加えながらよく突き固める。



留意点:エルボとポリエチレン管との接続から 漏水を防ぐため止水板を取り付ける







魚道全景(下流側から)



魚道全景(上流側から)

出口に浮き(ペットボトル等)を固定し、呑み口が水面に浮くようにする。(魚類は水を叩く音に引き寄せられるため、水没していると集魚効果が落ちる)

#### 通水



ポンプによる通水



通水試験



通水試験(水深の測定)

設置した田んぼに入水が出来ない場合は、ポンプ等を使って通水試験を行い、 通水状況を確認する。

流量の状況を必要に応じて調整を行って完成させる。

# 完成

# 5.2 施工の参考となる文献

水田魚道の設計、設置、施工にかかる参考文献としては、水田 魚道設置までの流れや、農地・水・環境保全向上対策などでの 設置事例、モニタリングの結果などを紹介した『水田魚道づく りの指針』(平成22年3月((社)農村環境整備センター発行) があるため、参考にするとよい。

